



議席 2 番
染谷 直人 議員

橋本町政12年間の
取組と実績について

問 ①負の遺産となっていた懸案の処理について
ア) 土地公社の借金、食肉処理場跡地、雇用促進住宅、借地の賃料等の固定経費の圧縮など、長年の懸案となっていた案件について、これまでの処理の経過と実績を伺いたい。

答 就任当初、土地公社の借金、と場跡地、雇用促進住宅、借地料など、境町には長年先送りされてきた課題が数多く存在していました。そこで町長就任後、まず全体像を把握するため「やることリスト」を作成し、優先順位を付けながら解決できるものから一つずつ着実に処理してきました。

雇用促進住宅については、当初ほとんど入居者がいない状況で国から約1億円での取得打診がありましたが、町の将来負担を見据え粘り強く交渉を重ね、最終的に約2,500万円で22部屋を取得しました。補助金も活用した結果、現在は年間約2,500万円の家賃収入を生み出し、町の安定した自主財源へと転換されています。

また、借地料についても、平成26年度約4,000万円から令和7年度約3,000万円規模まで圧縮しており、「払い続ける固定費はできる限り解消する」という考えのもと、財政体質の改善に取り組んできました。(町長)

問 ②教育の充実について

ア) 学童保育は、受け入れ数を始めどのように変わったか伺いたい。

イ) 体育館を始めエアコンの設置やLED化などの整備状況について伺いたい。

ウ) 英語教育の充実の成果について伺いたい。

答 学童保育については、就任当初は一か所に集約した体制でしたが、保護者からの「学校ごとに設置してほしい」という声を踏まえ、各学校区ごとに放課後児童クラブを順次整備してきました。その結果、受け入れ定員は約200人規模から現在約440人へと拡大し、今後は高学年対応を含め約540人規模まで拡充する見込みです。あわせて、夏休みなど長



議席 4 番
鈴木 英明 議員

境町モデルと次期
町長選について

問 3期12年の施策の境町モデルの成果についての総括についてお伺いいたします。

答 境町モデルにつきましては、隈研吾氏設計のS-Lab1(干し芋工場・ワイン工房)を皮切りに多くの施設を造らせていただきました。干し芋工場、ワイン工場、PFI住宅、グランピング施設、サーフィン場、などを展開し、今では、内閣府のモデル事業や、参考資料にも境町の取組が載るようになってい

ます。
境町モデルとは、官民連携で、国の補助金を活用し、境町が投資した分は、家賃で回収するという、新しい自治体の収益モデルです。令和7年は1億5,577万円の家賃が境町に入ってくる予定です。また、境町モデルについては、つくばみらい市、山梨県笛吹市。地域優良賃貸住宅については、茨城県五霞町、八千代町、つくばみらい市といった自治体で、境町を参考に横展開されています。境町モデルで、投資した各施設については、優良企業と連携しているのもポイントで、長く家賃を払っていただける企業というのもポイントです。様々な経済状況下でも、しっかりと稼げる自治体として、細心の注意を払いながら進めてまいります。(町長)

問 今後の境町の町政運営についてお伺いいたします。

答 この12年間は、財政再建、人口減対策、人の創生に力を入れてまいりました。

今後の境町の町政運営については、財政が改善したことにより、稼ぐ施設ではなく、老朽化した施設のリニューアルに取り組める段階にきていると考えています。老朽化した、給食センターや、賃借料が高い施設の返還など、今後数十年の未来を見据えた公共投資をしてまいります。また、生活圏道路についても住民の皆様が身近に感じていることを改善していき、物価高騰対策等、住民の皆様が境町に住んでよかった、住み続けられる町にするために努力してまいります。(町長)